# タイ人学習者はどのようにひらがなを覚えているか

千葉真人

## 1. はじめに

ローマ字など[1]で日本語を学習する学習者もいるが、多くの日本語学習者は仮名と漢字を学習する。現在、一般的な漢字仮名交じり文は漢字とひらがなで書かれ、その中の外来語などをカタカナで書く。このことから、日本語教育では、ひらがな・カタカナ・漢字の順に学習していくのが一般的となっている（富田・眞田 1994：179）。したがって、学習の入門段階でまず問題になるのはひらがなである。これはタイにおける日本語教育でも多くの場合そう言えるだろう。しかし、実際は「文字教育というと、漢字教育に思考が偏り、仮名教育までは考えが及ばない」（河原崎 1989：245）という指摘もある。

筆者が大学などで文字を教えていて問題だと感じるのは、ひらがなが覚えられないために日本語学習そのものをやめてしまうタイ語を母語とする学習者（以下「タイ人学習者」）がいることである。あるいは次の学習段階に進むのに時間がかかるタイ人学習者がしばしば存在することである。仮名が漢字をもとにして作られている以上、中国語母語話者など漢字圏の学習者と比べて不利であるのは確かだろう。教師としてはこのような文字が覚えられない学習者を見て、つい「教室外での書き練習が足りないからだ」、「学習意欲がないからだ」と考えがちである。もちろん学習者側にもそういう面はあるだろうが、教師側の授業方法にも改善の余地があるのではないだろうか。

オックスフォード（1994）は学習ストラテジーを６種類に分類し、その中の一つに「記憶ストラテジー」を挙げている。この記憶ストラテジーは「新しい情報の蓄積と想起を助ける」ものである。その方法としては、「知的連鎖を作る」、「イメージや音を結びつける」、「繰り返し復習する」、「動作に移す」の４つに分類している（p.37-43）。「教室外での練習が足りない」と考える教師は、記憶ストラテジーの中の「繰り返し復習する」ことについては考えているが、それだけでは充分ではないのかもしれない。

カッケンブッシュ他（1989）では「連想法（アソシエーション法）」を用いたひらがな導入法の効果が報告されている。連想法というのは「イメージや奇抜な“ごろあわせ”などを仲立ちとして文字（ひらがな）と音（読み）との連合を形成する技法」である（p.151）。例としては「あ」が塀の上に立っている絵があり、「あ」の１画目の線をアンテナに見立てて、「『あ』は『アンテナ』の『あ』」と覚える方法が紹介されている。この授業での学習者はインドネシア人、フランス人、タイ人など多国籍で、媒介語は英語である。そして、連想法を用いた結果、短時間でひらがなを導入できることが明らかになっている。連想法は記憶ストラテジーの中の「イメージや音を結びつける」方法と関係していると考えられる。

カッケンブッシュ他（1989）での今後の課題にも挙げられているが、英語以外の言語使用者向けにも教材を開発する必要性がある。タイ人学習者向けのタイ語による教材も開発できると有用であろう。カタカナに関しては既にタイ人学習者向けの連想法によるカードが作成されている（深澤 2005）。

本稿では文字と音を結びつける段階までは至らないが、まずタイ人学習者がひらがなをどう認識し、記憶しているかに焦点を当てた調査結果について報告したい。その結果がひらがなを覚えられない学習者に対して、多少の手助けになるかもしれない。

もう一つ筆者が文字を教えていて感じるのは、タイ人学習者が書くひらがなの字形に比較的多くの学習者に共通する特徴が見られることである。タイ人学習者と日本語母語話者の文字を調査、比較している吉田（1998）でも、タイ人学習者が書いたひらがなの場合、「い」が左に傾きすぎる、「た」の３画目が高すぎるなどの特徴が報告されている。これらの字形の崩れが、学習者が持っているひらがなの記憶法と何らかの関連があることも考えられる。この意味からもタイ人学習者がどうひらがなを認識し、記憶しているか調査するのは有意義だと考えられる。

## 2. 調査の概要

調査対象は 2005 年度前期（2005 年 6 月下旬～10 月下旬）にサイアム大学ホテル観光学科において「日本語１」[2] という科目を履修したタイ人学習者である。この科目は基本的には全く日本語の知識がない学習者を対象としたコースである。ただし、若干名高校等で学習経験がある学習者も含まれている。

対象となった学習者は中間試験前までの 12 回の授業で、ひらがなについては「あ」～「ん」までの 46 文字をまず学習し、その後濁音・半濁音・促音・長音・拗音と一通り学習が終わっている。中間試験後の最初の授業時間内（2005 年 8 月 16 日～8 月 18 日）に調査用紙を計 79 名の学習者に配布した。そして、「ひらがなに関して、何か記憶法があるか。なければ何も書かなくてかまわない。もしあればどのような方法か」をタイ語で記入して提出するように依頼した。なお、調査者である筆者は授業中、特に何かのイメージと結びつけるような教え方はしていない。

調査用紙は 2005 年 8 月末までに回収を終えた。最終的には 67 名の学習者からの回答を得ることができた。特に不備のある回答は見られなかったため、最終的な有効回答率は 84.8%であった。

## 3. 調査の結果

### 3.1 記憶法とその種類

67 名の学習者の中で「何らかの記憶法を持っている」と答えた学習者は 66 名（98.5%）であった。１名だけ「とにかく何回も書いて覚えるだけです」と口頭で調査者に言って何も記入しないで提出した学習者がいた。しかし、ほとんどの学習者が何らかの記憶法によってひらがなを覚えていることがわかった。

次に回答の具体的な内容についてまとめたのが下の表１である。紙面の都合上すべてを紹介することは難しいので、各文字について多かった回答のうち上位３種類およびその他の回答が何種類あったかについて真ん中の欄に記載した。各回答の後ろのカッコの中の数字はその回答をした学習者の人数である。そして、右の欄の数字はその文字について挙げられた全ての回答を合計した数字である。なお、ほとんどの学習者が一文字につき１種類の回答をしたが、３例（「し」、「の」、「み」）だけ、同一の学習者が一文字につき２種類の回答をした例があった。これは、それぞれの回答の人数に別々に算入した。

表１　記憶法の種類とその人数

| | 記憶法 | 計 |
|---|---|---|
| あ | タイ文字の「ด」にアルファベットの「ｔ」を合わせたよう（2）、アルファベットの「a」のよう（2）、「の」にアルファベットの「ｔ」を合わせたよう（1）、その他５種類 | 8 |
| い | （　）（カッコ）のよう（3）、雨のよう（3）、縦線２本（2）、その他７種類 | 16 |
| う | タイ文字の「า」に線を引いたよう（8）、タイ文字の「า」のよう（3）、アイスクリームのよう（2）、その他７種類 | 21 |
| え | アルファベットの「Z」のよう（16）、アルファベットの「ｈ」に線を引いたよう（4）、アルファベットの「Z」の上に線を引いたよう（2）、その他５種類 | 27 |
| お | アルファベットの「H」のよう（1）、人が乗っている馬のよう（1）、丸に点のよう（1）、その他３種類 | 6 |
| か | アルファベットの「K」のよう（2）、数字の「4」をひっくり返したよう（2）、タイ文字の「า」に線を引いたよう（1）、その他２種類 | 7 |
| き | 数学の「≠」のよう（6）、汽車のレールのよう（1）、二本線のよう（1）、その他３種類 | 11 |
| く | 数学の「＜」（不等号）のよう（52）、笠のよう（1）、鳥の口のよう（1）、その他５種類 | 58 |
| け | タイ文字の「เ」にアルファベットの「ｔ」を合わせたよう（4）、アルファベットの「ｌ」に「ｔ」を合わせたよう（2）、電柱と傘のよう（2）、その他７種類 | 15 |
| こ | 数学の「=」（等号）のよう（20）、タイ文字の「ะ」のよう（3）、横線２本（2）、その他６種類 | 34 |
| さ | 数学の「×」のよう（4）、アルファベットの「ｘ」のよう（2）、数学の「＋」のよう（2）、その他６種類 | 14 |
| し | アルファベットの「L」のよう（21）、釣り針のよう（21）、アルファベットの「J」を反対にしたよう（9）、その他７種類 | 63 |
| す | アルファベットの「ｔ」に丸があるよう（4）、十字架のよう（2）、タツノオトシゴのよう（1）、その他８種類 | 15 |
| せ | アルファベットの「H」のよう（6）、歯の矯正器具のよう（3）、タイ文字の「ษ」のよう（1）、その他４種類 | 14 |
| そ | アルファベットの「ｚ」のよう（10）、アルファベットの「ｚ」にしっぽがあるよう（7）、稲光のよう（3）、その他８種類 | 29 |

| | | |
|---|---|---|
| た | アルファベットの「t」にタイ文字の「ะ」を合わせたよう（6）、アルファベットの「t」に数学の「=」を合わせたよう（3）、アルファベットの「t」のよう（3）、その他6種類 | 20 |
| ち | 数字の「5」のよう（26）、数字の「5」のようだが、さらに線がある（3）、稲を刈る鎌のよう（1）、その他4種類 | 34 |
| つ | 釣り針のよう（13）、アルファベットの「c」を反対にしたよう（2）、鎌のよう（2）、その他10種類 | 27 |
| て | 数字の「7」のよう（7）、妊婦のよう（6）、タツノオトシゴのよう（3）、その他7種類 | 24 |
| と | アルファベットの「y」のよう（20）、アルファベットの「y」にしっぽがあるよう（8）、妊婦に角があるよう（1）、その他6種類 | 35 |
| な | 人の顔のよう（1）、馬の頭のよう（1）、自転車のよう（1）、その他1種類 | 4 |
| に | アルファベットの「K」のよう（5）、数字の「1」に数学の「=」を合わせたよう（4）、アルファベットの「K」のようだが、離れている（2）、その他5種類 | 18 |
| ぬ | ネズミのよう（3）、「め」のよう（2）、タイ文字の「ด」にしっぽがあるよう（1）、その他2種類 | 8 |
| ね | タイ文字の「ท」に頭としっぽがあるよう（5）、アルファベットの「n」に頭としっぽがあるよう（3）、「れ」のよう（2）、その他5種類 | 15 |
| の | タイ文字の「ด」のよう（57）、タイ数字の「๑」のよう（3）、タイ文字の「ด」のよう（2）、その他1種類 | 64 |
| は | 数字の「1」と「2」を並べたよう（2）、「ほ」のよう（2）、英語の単語「It」のよう（1）、その他1種類 | 8 |
| ひ | アルファベットの「U」のよう（32）、鼻のよう（4）、アルファベットの「V」のよう（3）、その他12種類 | 55 |
| ふ | 雨粒のよう（5）、三角形のよう（2）、ひげと鼻のある顔のよう（2）、その他8種類 | 17 |
| へ | 家の屋根のよう（12）、チェック（正解マーク）をひっくり返したよう（10）、山のよう（7）、その他9種類 | 43 |
| ほ | 「は」のよう（2）、二本線で角がない（1）、数字の「1」と「2」を並べたよう（1）、その他2種類 | 5 |
| ま | 数字の「2」のよう（2）、二本線に角がある（1）、アルファベットの「t」のよう（1）、その他5種類 | 9 |
| み | タイ文字の「ม」のよう（30）、アルファベットの「H」のよう（5）、数字の「4」のよう（4）、その他5種類 | 45 |
| む | タイ文字の「ม」のよう（5）、ヨットのよう（2）、タイ文字の「ม」に線があるよう（1）、その他2種類 | 10 |
| め | タイ文字の「ด」に角があるよう（4）、「ぬ」のようだが、しっぽがない（3）、タイ文字の「ด」のよう（2）、その他5種類 | 18 |
| も | アルファベットの「t」のよう（4）、釣り針のよう（4）、アルファベットの「t」だが、線が2本ある（2）、その他6種類 | 18 |
| や | アルファベットの「P」のよう（7）、アルファベットの「P」の上に線を足したよう（3）、はさみのよう（1）、その他3種類 | 14 |

| | | |
|---|---|---|
| ゆ | 魚のよう（5）、タイ文字の「น」のよう（4）、タイ文字の「ถ」を横にしたよう（3）、その他５種類 | 19 |
| よ | 数字の「2」のよう（6）、タイ文字の「ม」のよう（3）、ヨーヨーのよう（1）、その他４種類 | 14 |
| ら | 数字の「5」のよう（21）、数字の「5」のようだがしっぽがくっつかない（3）、数字の「5」のようだが上の線は引かないで、上の離れたところに線を引く（2）、その他５種類 | 34 |
| り | 「い」のようだが、それより長い（3）、数字の「11」のよう（2）、箸のよう（2）、その他５種類 | 12 |
| る | 数字の「3」のようだが、下のほうに頭がある（21）、数字の「3」のよう（15）、アルファベットの「ｚ」にしっぽがあるよう（3）、その他２種類 | 42 |
| れ | タイ文字の「ท」のよう（8）、タイ文字の「ท」に線を足したよう（3）、アルファベットの「ｎ」のよう（2）、その他４種類 | 18 |
| ろ | 数字の「3」のよう（57）、数字の「3」のようだが、しっぽがちょっと短い（1）、アルファベットの「ｚ」に曲がったしっぽがあるよう（1） | 59 |
| わ | タイ文字の「ท」のしっぽを丸めて線を足したよう（3）、「ね」のようだが、しっぽがない（2）、タイ文字の「า」のよう（1）、その他４種類 | 10 |
| を | アルファベットの「ｈ」に「ｃ」を合わせたよう（4）、人の顔のよう（2）、太った人の横顔のよう（1） | 7 |
| ん | アルファベットの「ｈ」のよう（45）、アルファベットの「ｈ」だが、傾いている（4）、アルファベットの「ｈ」だが、しっぽがある（3）、その他３種類 | 55 |

次に、回答の合計人数が多かった上位･下位５文字をまとめたのが、表２である。なお、人数の後ろのカッコの中は回答者全体 67 名に対する割合である。

表２　記憶法を回答した人数が多い文字と少ない文字

| 上位５文字 | 人数（割合） | 下位５文字 | 人数（割合） |
|---|---|---|---|
| ①「の」 | 64 名（95.5%） | ①「な」 | ４名（6.0%） |
| ②「し」 | 63 名（94.0%） | ②「ほ」 | ５名（7.5%） |
| ③「ろ」 | 59 名（88.1%） | ③「お」 | ６名（9.0%） |
| ④「く」 | 58 名（86.6%） | ④「を」、「か」 | ７名（10.4%） |
| ⑤「ひ」、「ん」 | 55 名（82.1%） | | |

上位５文字が全て１画のひらがなであることを見ると明らかなように、やはり画数が少ないひらがなの方が記憶法は持ちやすいようである。他の１画のひらがな「へ」（43 名：64.2%）、「る」（42 名：62.7%）、「そ」（29 名：43.3%）なども回答人数が多かった。比較的、認識しやすく、（その記憶法が字形との関連性の上で適切かどうかは別として）記憶しやすいひらがなだと言えるだろう。

逆に下位５文字は「な」、「ほ」が４画、「お」、「を」、「か」が３画など画数が多いひらがなが占めている。この他にも３画の「あ」（８名：11.9%）、「ま」（９名：13.4%）などは認識しにくく、覚えにくいひらがなであると言える。

### 3.2　記憶法と特徴的な字形との関係

ここでは学習者の記憶法に関する回答と、吉田（1998）で指摘されている字形の特徴および筆者が教えていて見てきた字形の特徴との関係について、気がついた点について述べる。なお、例として図に挙げたひらがなの例は実際の学習者のものではなく、筆者が再現して作成したものである。

#### 3.2.1　「う」

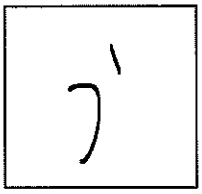

図１「う」の例

吉田（1998）では指摘されていないが、筆者が気になっているのは「う」（および「え」）の１画目が２画目の真上に来ないで、右肩のほうに来る（右図１）書き方をする学習者が多いことである。記憶法で多かった回答は「タイ語の『 า 』のよう」、「タイ語の『 า 』に線を引いたよう」という回答であった。単に「 า 」というだけでは、このような字体になってしまうこともあるだろうから、１画目が２画目の真ん中の真上だということを意識させる必要があるだろう。そういう意味では３番目に多かった「アイスクリームのよう」だという記憶法は優れているかもしれない。図１のようなアイスクリームでは溶けかかっていて食べられなさそうである。

#### 3.2.2　「き」および「さ」

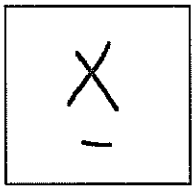

図２「さ」の例

「さ」では数学の「×」あるいはアルファベットの「ｘ」のようだという回答が多かったが、そのためか右図２のように１画目の傾きが極端な例が見られる。これは吉田（1998）で「き」や「さ」の１画目の傾きが大きい例が 25%近くの学習者に見られたのと一致している。また、「き」が傾いている学習者は「さ」も傾いていると吉田（1998）では報告されているが、筆者が見てきた中では「き」の３画目（「さ」では２画目）が右方向に傾かずに左方向に傾いているものも時々ある（右図３）。これは「き」に関する回答で最も多かった「数学の『≠』のよう」だという記憶法と関係している可能性があるので、注意が必要である。

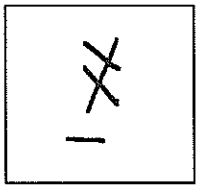

図３「き」の例

#### 3.2.3　「け」

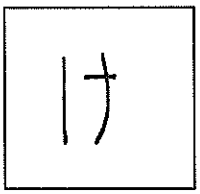

図４「け」の例

吉田（1998）では指摘されていないが、「け」の右側と左側を同じ大きさで書く学習者が時々見られる（右図４）。今回の調査の「け」で多かった回答は、「タイ文字の『เ』にアルファベットの『ｔ』を合わせたよう」、「アルファベットの『ｌ』に『ｔ』を合わせたよう」というものであった。これでは、左右の大きさの違いが意識されない可能性があるので、注意が必要だろう。

### 3.2.4　「こ」および「に」

「こ」の２本線の間隔、「に」の右側の２本線の間隔が狭すぎて全体的に平べったくなりすぎる例が時々見られる（右図５）。「こ」で最も多かった回答は「数学の『=』のよう」、「に」でも「数字の『1』に『=』を合わせたよう」という回答が２番目に多かった。数学の等号のように書いてしまうと、このように間隔が狭く平べったい文字になってしまうので、それよりは広く書かなければならないということを指導する必要がある。

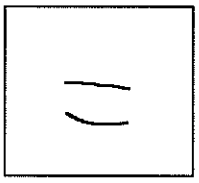

図５「こ」の例

### 3.2.5　「そ」

「そ」には横線が２本あり、上の線より下の線のほうが長いが、これを同じ長さ、あるいは逆に下の線のほうを短く学習者がいる（右図６）。「そ」で多かった回答は「アルファベットの『ｚ』のよう」、「アルファベットの『ｚ』にしっぽがあるよう」であった。「ｚ」よりは下の線が長いということ点に注意しなければならない。また、「り」とともに下の足の部分が（罫線のあるノートなら）行を超えて長く書かれるのも時々見られる。タイ語の「ิ」や「ี」の影響だろうか。

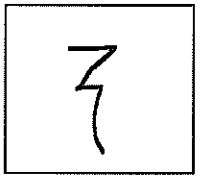

図６「そ」の例

### 3.2.6　「た」

吉田（1998）では３画目の位置が１画目と横並びになるか、それよりも高くなるという学習者が約20%いると報告されているが、筆者が見てきた限りでもこれはよく見られる。さらに、筆者が見てきた例では２画目が傾かずにまっすぐ下に降りてくるのも非常に多い（右図７）。これは「アルファベットの『ｔ』にタイ文字の『ะ』を合わせたよう」、「アルファベットの『ｔ』に数学の『=』を合わせたよう」、「アルファベットの『ｔ』のよう」などという記憶法により、２画目が傾くという意識が希薄なことから起こっている可能性がある。

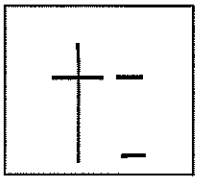

図７「た」の例

### 3.2.7　「と」

「と」の１画目の書き出しの点と２画目の曲がる先端部は縦にほぼまっすぐになるが、２画目の先端部が右に寄りすぎる学習者が多い（右図８）。これも「アルファベットの『ｙ』のよう」、「アルファベットの『ｙ』にしっぽがあるよう」という記憶法から来ているものだろう。

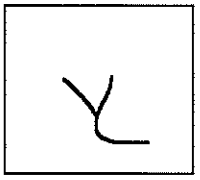

図８「と」の例

### 3.2.8　「ふ」

吉田（1998）でも30%の学習者に問題があり、点の位置、１画目から２画目へのつながり、２画目の形、４画目の位置など様々な問題があったと報告されている。筆者が見た限りでも同様である（次ページ図９～11）。「ふ」で最も多かった回答は「雨粒のよう」というもので、確かにそのようにも見えるが、逆に言うと各点画の位置などが明確になっているわけではないので、このような字形が多く見られるのかもしれない。

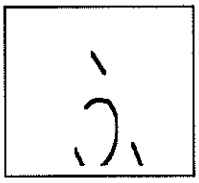

図 9 「ふ」の例 1

図 10「ふ」の例 2

図 11「ふ」の例 3

### 3.2.9 「や」

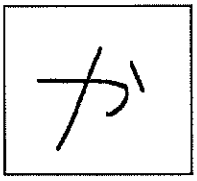

図 12「や」の例

「や」は吉田（1998）では 1 画目の傾きが急すぎる、2 画目の点が離れすぎているなどの点が指摘されている。そのような特徴もよく見られるが、筆者が気になるもう一つの点は 3 画目の傾きが右ではなく、まっすぐあるいは左に傾いていることである（右図 12)。場合によっては「か」のように見えることもある。今回の調査では「アルファベットの『P』のよう」、「アルファベットの『P』の上に線を足したよう」という回答が多かった。「P」の縦線はまっすぐか、左に傾くのが普通で、右に傾くことはあまりないだろう。このことが関係している可能性がある。

### 3.2.10 「ら」

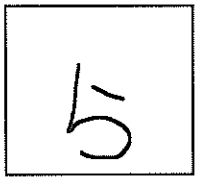

図 13「ら」の例

吉田（1998）でも 1 画目が右や右下に寄りすぎる学習者が 16%いたと報告されている。これもよく見られるものである（右図 13)。これは最も多かった「数字の『５』のよう」、「数字の『５』のようだがしっぽがくっつかない」という回答から影響を受けた可能性がある。

### 3.2.11 「る」および「ろ」

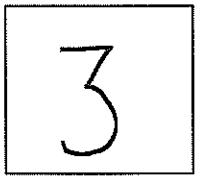

図 14「ろ」の例

吉田（1998）では斜めの線が短すぎるためにバランスが取れていない学習者が 20%強見られた。これもよく見られるものである（右図 14)。今回の調査でも「る」、「ろ」ともに「数字の『３』のようだという回答が多く特に「ろ」では 57 名（85.1%）と圧倒的に多かった。このことが原因である可能性が高い。

### 3.2.12 「ん」

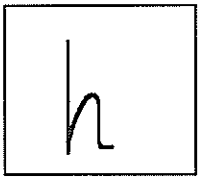

図 15「ん」の例

「アルファベットの『ｈ』」のよう」だという回答が 45 名（67.2%）と非常に多かった。吉田（1998）でも 18%の学習者が「ん」の縦線の向きを垂直に近く書き、幅もない場合は「ｈ」に近くなっているとある。これはやはり、「ｈ」だと思い込んで書いてしまうことから来るものであろう。数は多くないが、「アルファベットの『ｈ』だが、傾いている」という回答もあった（４名：6.0%）。このように、「傾き」を意識させる指導が必要だろう。

## 4. まとめ

今回の調査の結果をまとめると以下の3点になる。

1) 多くの学習者が何らかのひらがなの記憶法を持っている。これを他の学習者と共有できれば、ひらがなを覚えられない学習者にとっては助けになるかもしれない。
2) ひらがなの画数は1画から4画まであるが、画数の少ないひらがなのほうが覚えやすく、画数が多いひらがなは記憶法が持ちにくい。
3) ひらがなの記憶法は記憶の手助けになるが、それがかえって字形を崩してしまう原因になっているものもある。学習者がそのような記憶法を持つ可能性がある文字については、教師が指導の際に注意を払わなければならないだろう。

もちろん、今回の分析はわずか67名の学習者から得られた回答だけをもとにしており、この数が充分だというわけではない。また、ひらがなの音と文字を結びつけるような記憶法が見つかれば、学習者にとってより大きな手助けになるだろう。これらは今後の課題としたい。

## 注

（1）「ローマ字など」としたのは、例えばタイで出版されている日本語学習書の中に日本語の音声をタイ文字で表記しているものもあり、必ずしもローマ字に限定されていないためである。

（2）サイアム大学ホテル観光学科では、必修選択科目として日本語がある。日本語、フランス語、中国語の中から1つ選択し、日本語であれば「日本語1」から「観光用日本語」まで全部で6科目の単位を取得しなければ卒業できない。つまり、「日本語1」という科目は一番初めに学習する科目ということになる。

## 参考文献


カッケンブッシュ寛子・中條和光・長友和彦・多和田眞一郎（1989）「50分ひらがな導入法－『連想法』と『色つきカード法』との比較」『日本語教育』69号、日本語教育学会

河原崎幹夫（1989）「片仮名の指導法」『講座日本語と日本語教育9　日本語の文字・表記（下）』、明治書院

富田隆行・眞田和子（国際交流基金）（1994）『教師用日本語教育ハンドブック②新表記』、凡人社

深澤伸子（2005）「文字の導入－サイレントウエイを取り入れた50音の導入から文字導入へ－教室における習得の可能性」、タイ国日本語教育研究会第17回年次セミナー分科会発表レジメ

吉田裕子（1998）「タイ人学習者の書くひらがなの字形の特徴－集計結果の分析－」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要』第1号、国際交流基金

レベッカ・L・オックスフォード（1994）『言語学習ストラテジー　外国語教師が知っておかなければならないこと』、凡人社